

世界史 授業 No.10 テーマQ.&A.プリント

1. 今日のテーマ・クエスチョン

アレクサンドロスの意義と限界とは？

2. テーマ・アンサーのキーワードをピックアップ

※教科書該当ページ（P. 25・36）の中から見つけよう！

前4世紀後半、北方のマケドニア王国が（ 1 ）のもとで軍事力を強め、（ 2 ）の戦いでポリス連合軍を破って、全ギリシアを支配下においた。フィリッポスの子アレクサンドロス大王は、前334年ペルシアをうつためにマケドニアとギリシアの連合軍をひきいて（ 3 ）に出発した。大王はペルシアをほろぼし、さらにインド西北部まで軍をすすめて、わずか10年のあいだに東西にまたがる大帝国をきずいた。この間に（ 4 ）風の都市がオリエントに多数建設され、これらの都市を中心に（4）文化が広まったが、大王の急死後、その領土はおもに3人の将軍たちによって分割された。（3）から、もっとも長く存続した（ 5 ）朝エジプトがほろぶ（前30年）までの約300年間を、ヘレニズム時代とよぶ。

<記入欄>

- 1 () 2 () 3 ()
4 () 5 ()

3. 今日のテーマ・アンサー（テーマ・クエスチョンの答）確認

※今日のノートに取った内容や2.でピックアップしたキーワードを参考にしよう。

T. Q. 「アレクサンドロスの意義と限界とは？」

T. A.

アレクサンドロスの〔① 〕遠征は、万人同胞意識や〔② 〕主義（コスモポリタニズム）にもとづく、東西世界の融合を目標としたものであった。また国際語としての〔③ 〕や、ギリシア的な東西融合文明である〔④ 〕文化が形成されるなど、文化的に大きな意義もあった。しかしこの世界帝国は武力に頼るものであり、各地に建設したギリシア的な都市（〔⑤ 〕）を中心にした拠点支配に過ぎなかつたので、〔②〕（コスモポリタン）からなる世界国家という理想とは大きく外れたものになってしまった。

<記入欄>

- ① [] ② [] ③ []
④ [] ⑤ []

[] 年 [] H No. [] 氏名 []